

徳之島事務所（令和7年11月分）管内情勢

農林水産業関連

1 令和7年度産たんかんの着果量はやや少ない傾向

10月28日、31日、11月4日に徳之島町及び天城町にて、たんかんの成木及び幼木栽培講習会を開催し、生産者・関係者計98人が参加した。

今年は9月以降の降雨量が少なく、園地によってはリュウキュウミカンサビダニなどの害虫が多く見られる。また、10月下旬から朝夕の気温が下がってきており、仕上げ摘果の適期であることから、実演しながら講習を行った。

今年度は樹齢が若い着果樹が増えているが、産地全体の着果量はやや少ないと予想される。

2 令和8年産の生産量増大に向けたマンゴーの栽培管理がスタート

11月11日、13日に徳之島町、天城町、伊仙町にて、マンゴー栽培講習会を開催し、生産者・関係者計34人が参加した。

令和7年産について、着花は順調であったが、開花期の低温の影響により生産量が低下した。11月以降の栽培管理が次年産の着花に大きな影響を与えることから、今の時期が令和8年産に向けたスタートとなる。

当課では、令和8年産の着花及び着果が安定し、生産量が増大するよう、整枝方法や病害虫防除などについて支援する。

3 畑かんマイスターによる事例発表で畑かんを利用した 営農を推進

10月29～30日に伊仙町にて、経営技術課主催の県畑かん営農推進大会が開催され、伊仙町の畑かんマイスターが事例発表を行った。

発表では畑かん水の利用により、飼料作物の生育促進や、収穫回数の増加につながり、収量が向上して生産牛頭数を計画的に増頭できること、また子牛への自給粗飼料利用によりコスト低減が図られ、経営改善につながっていることが報告された。

当課では、引き続き畑かん水を利用した営農による生産者の経営改善を支援する。



4 産業祭で畑かん営農をPR

11月22日に徳之島町、11月23日に天城町・伊仙町で開催された産業祭にて、会場の一角に展示ブースを設置し、畑かん営農推進を図った。

徳之島の農業や農業における水の大切さ、徳之島ダムや畑かんについてのパネルやスプリンクラー等の散水器具展示を通じて、島内における畑かんの整備と営農の取組を広くPRした。伊仙町では100人以上がブースに訪れ、パネルや散水器具を興味深く見る人もいて、畑かん推進への理解醸成の機会となつた。

当課では、今後も関係機関と協力しながら、畑かん営農を推進していく。

5 未来の担い手に畑かんの大切さを伝える

11月26日に徳之島高等学校にて、総合学科生物生産系列の2年生14人を対象とした畑かん営農講座を実施した。

本講座は、平成26年度から開講しており、今回で12回目となる。講座では、畑かん営農に関する座学のほか、畑かん水を活用した農業経営に取り組む経営主による講話を取り入れた。

受講した生徒たちからは、「農業者から畑かん水のありがたさを聞いて、未来の島のために生かしたい」「普段の授業では聞けない話を聞いて良かった」などの感想が出された。



6 面縄小学校の小学生、畑かんとさとうきびについて学ぶ

11月4日に伊仙町面縄小学校にて、小学5年生22人を対象に出前授業を行った。

授業では、畑かん営農とさとうきびの栽培などについて説明し、徳之島の農業の特徴や水の必要性、徳之島におけるさとうきびの地域農業に占める割合、栽培管理と砂糖ができるまでの行程などを3m近い夏植の3品種を持参して説明した。質疑応答の時間は無かったが、後日、小学校から生徒の感想が届き、農業への理解が深まったようであった。

7 「徳之島さとうきび新・ジャンプ会」土づくり等を学ぶ

11月21日に農業開発総合センター徳之島支場にて、さとうきびハーベスターを所有し、一定規模のきび生産を行っている生産者で構成された組織「新・ジャンプ会」の研修会が開催され、会員など約40名が参加した。

研修では徳之島で課題となっている農地の集積・集約等について、喜界町の生産者を講師に、地域計画への話し合い参加の取組紹介があったほか、農機メーカーより土づくりを行う上で、深耕の必要性に

ついて説明があった。研修では機械等の実演もあり、徳之島の課題に合った有意義な研修となった。